

小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

(網掛け部分は外部評価の調査項目)

事業所名： (有) リフレッシュ グループホーム彩

ユニット名： 1ユニット

記入日：平成19年5月29日

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	4箇条の法人の理念をより優しい表現に置き換えており特に「笑顔と寄り添い」を大切に考えて実践している。利用者は敏感に感じ取られますのでいつも笑顔でいられるように心がけています。		ミーティングの際に理念について、定期的に再確認を行いながら、自身のものとなるように心がけている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング（月2回）時に管理者からも繰り返し指導を受けている。またスタッフ個々も確認しあいながら、ご利用者様に接するように行っている。		理念を常に念頭に置きながら、日々の業務にあたっている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域には浸透しており日常的な交流を通してホームで大切にしていることを理解していただいている。来訪者には一目でわかるように笑顔で寄り添っている写真を展示しホーム独自の広報誌を家族に配布している。		市役所や図書館など、入居者と一緒に出かける場面や、選挙投票への介助などを通じて自治体の方たちと接する場面も多い。ホーム内外を問わず、優しく対応するように心がけている。
	2. 地域との支え合い			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	花壇や畑を作り近所の方に見て頂いたり逆に近所の方にお花を頂いたり、ホーム付近の草刈り等をして頂く事もある。また、犬の散歩に出かけ学生さんから声をかけられる事もある。	○	左記内容と同様。 施設近くを登下校する子供達を見かけることもあり、問題なければ自由に行き来できる環境も作れれば考える。子供達との触れ合いも自然に出来れば良いと思う。

5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	定期的に月一回ボランティアの方に来ていただいている。又、誕生会等にも太鼓や踊りを行って頂いている。毎年、地区の敬老会にも参加させて頂き、隣組の獅子舞も大勢でホームの庭で舞って頂いている。	○	今後も、行事や地域の方たちとの交流を深め、開放された施設作りと共に、当施設を理解していただければと考えている。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、当ホームが地域に貢献出来る場がありましたら参加させていただけるようお願いしている。	○	職員が地域に働きかけて取り組んだ経過はまだないが、施設を通して今後、働きかけができるようになりたい。
番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「評価報告書」を元にミーティングを行いマニュアルの作成・実施・閲覧・表に明記するなど改善に努めている。		ミーティングでの情報の共有化に努めている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は利用者ご家族・公民館長・市職員・地域ボランティア等で構成し、3ヶ月に一度行われている。		会議に参加されたご家族の中では、ほぼ毎日面会に来て下さる方もいる。また地域との交流は個々の自立心を向上させるものであり、安心感も与えるものとする。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業運営について、例えば、感染症に対しての情報や助言を頂いたり、状態の悪い入居者に対しての対応（可能な医療処置や器具導入）について細かに連絡し、アドバイスを頂いている。		今後も継続して関わりを深め、サービスの向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	相談窓口は施設長が対応していますが、権利擁護・成年後見人制度について、資料学習・閲覧し理解を深めるようにしている。	○	スタッフ各々が制度に関して理解を深め、誰でもが、助言・情報提供できるようにしていきたいと考える。

11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月二回の勉強会を行い、ご利用者様が安全で安心した生活が送れるように心がけている。ボディチェックを密に行っている。	○	ヒヤリハット報告において、予測される事故を未然に防ぐ、また早急に対応する知識を深めていきたい。日々の職員の対応の中で問題が無いように、しっかり把握を行っていく。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	直接的な対応は職員は行っていないが、ご利用者・ご家族の問題や苦情などに日常的に把握するように対応している。		職員も日々、ご家族が面会に来られた際は会話を持つようにし、何でも相談していただける雰囲気作りを行っている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意思表示できるように、いつも傾聴できる姿勢をとっている。夜勤時は特に気を配り聞き出す努力をしている。		いつも顔色や表情の変化にきをつけている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族はほぼ毎日面会に来られる方から、一週間に一度は面会に来られているため、その都度ご利用者の健康状態や生活内容について話す機会を設けている。又ご家族からも意見や相談を受け、対応できるようにしている。		日勤帯のスタッフ配置には、それぞれ役割分担を行っており、状態把握・家族との対応・連絡調整を図る等、統括して業務に就くようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関しては、職員が聞いた場合は施設長に報告し、急を要する場合はすぐに、それ以外はミーティングの場で、皆で相談・解決していくようにしている。苦情相談窓口の明記、また苦情や不満がある場合は契約書にも第3者への報告が出来るように明記している。		左記同様

16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回のミーティングでの意見交換や、スタッフノートを活用して、業務改善に努めている。		今後も継続していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状態の悪いご利用者がいる場合は、勤務調整し、状態観察が充分にできるようにされている。月2回のミーティングは職員全員が集まりやすい時間帯で設定されている。 パート職員も増え急な欠勤にも対応できるようにしている。		利用者の状態が悪い場合、看護師の日勤帯の配置、夜間帯においても電話連絡・対応が出来るようにしている。又、ご家族からの要望やご意見に対しても率直に聞かせて頂き、ミーティング時に、改善策など検討し、業務に反映できるように今後も取り組んでいく姿勢である。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	さまざまな事情により退職される職員も多く、ご利用者には迷惑もかけていると思われるが、不満や不安を最小限に出来るように、現スタッフで努力している。	○	現在は、やむなく退職されたスタッフも、定期的に入居者に会いに来てくれる状況も見られる。今後も良い関係が築かれればと考える。
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当事業所の運営理念に基づいた対応が出来ることを基本にし、人権を尊重している。		採用にあたっては、左記質問内容を理由に排除する事はない。 各個人の資格取得に向けての研修等においても妨げず、自己研鑽に努めて頂く。

4

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	入職時には各ご利用者の生活歴等の情報の説明を受け、人格を尊重し、接していくようにしている。また対応に問題がある場合等は、指導を受け改善できるようにしている。	○	認知症についての学習を深め、各個人の人格を尊重し対応するように指導している。

21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会からの認知症介護実践研修を受講。ケアマネの受講に関しても休みを多く持たせ、学習できる状況を作り、受講料も負担している。	○	各スタッフにおいても、認知症についての知識・理解を深め向上していくように研修等の情報を提供し、受講を進めていきたい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	レクリエーションや行事の際に、他施設の方と合同で開催（花見）したり、他施設内のつつじの情報を頂いたりしながら交流を深めている。		管理者はブロック別に毎月の勉強会に参加している。今後は学習会の内容を職員へ伝達学習していき、向上を図っていきたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティングの場や、それ以外にも個々に話す機会を設け、心身共に安定した状態で業務に就くことが出来るように、話す時間を設けるなど配慮している。		管理者・職員共に、意見や思いを表出しやすい雰囲気作りを心がけ、対応するようにしている。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者からの報告、また、自身で入居者と関わりを深めながら、職員の勤務状況・内容についても把握するようにしている。ミーティングの中で、指導し、向上心を持って働くことが出来るように努めている。		今後も継続していく。
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくりと対応出来る雰囲気作りをし、不安感が最小限になるように説明・ご理解を頂いている。状況によっては、ご家族と別に伺う機会を設けるなど、配慮している。		ご理解頂けるまで、説明・納得を得られるようにしている。
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様、ご家族に対しても充分説明を行いご理解いただき入居できるように配慮している。		上記同様。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------------	----------------------------------

27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の不安がかなり強い場合や、身体状況が不安定な場合は入居予定であっても、再度心身共に安定するまで、状況を見ながら判断するようにしている。またご家族にも充分なご理解を頂いた上で対応するようにしている。	相談の場合、当事業所だけでなく、ご希望・状況などから勘察して他事業所や、他サービスが有効と判断する場合は、情報提供を行う事としている。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族から「見放された」思いに決してならないように、ご家族との時間も大切にさせていただけるようにご協力頂いている。	ご家族との関係は絶やすことなく、入居後の人間関係・日々のスケジュールにも決して無理強いせず、徐々に信頼関係を築きながら慣れて頂くように働きかけている。
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事や外出の際にはご家族にも連絡、参加を促し、共に楽しみ、喜ばれる場面も多く見られている。 また、ご利用者の方々からも、生活の知恵や、歴史をお聞きする場面も多く、学ぶ点は大きい。	利用者と寄り添う時間を大事に、今後も関わっていききたい。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	決して一方的な介護とならないように、ご家族への報告や、上記にもあるように、さまざまなレクリエーションや行事の際は、一緒に過ごす時間を大切に共有できるようにしている。	ご本人の家族の役割が継続できるように今後も同じ時間を共有できるように働きかけていきたい
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それまでの在宅生活に問題を抱えていた場合でも、入居する事で家族関係が途切れることのないように、働きかけを行っている。	ご本人の意思を尊重しながら、孤独感を生じないように働きかけを行っている。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望がある場合はご自宅に戻る機会をセッティングしたり、ご友人にも面会に来ていただいたりしている。	ご家族との外出や外泊、また短期間であっても同じ時間を過ごしたいというご希望があれば、一緒に施設内に宿泊していただくこともある。良い関係が保たれるように今後もサポートしていきたい。

33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	今までが独居の生活を送られていた方も多く、共同生活を送る上で、問題を生じる事も見られるが、双方の思いをくみ取り、生活が継続できるように援助している。		その時に置かれた本人の状況、精神状況の把握に努めながら、臨機応変に対応し、混乱を生じないように努力している。
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、入院生活を送られている方においては定期的にお見舞いし、ご家族との連携も取っている。		施設において出会った方たちとの関係を大切にしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
7	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各居室に訪問し、個人の思いや不満を聞き、改善できるように努力している。またこれまでの生活背景も考慮し、意見を反映できるように努めている。		共同生活を送る上で、孤立しないような働きかけと皆で解決できる事については、相談しながら一緒に解決策を見いだしていくようにしている。
36	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た情報や、その後に把握した情報を職員皆で共有できるようにしている。		入居後に知り得た情報についても、アセスメントしていき、皆で情報を共有できるようにしている。
37	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の流れの中で、皆で取り組む運動やレクリエーションを毎日実施しているが、ご自分で過ごす時間も大切にし、無理強いしないようにしている。		さまざまなゲームや作業の中でも、ご本人に理解していただき、取り組むことができるような工夫をし関わっている。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			

38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングの時に、ケアプランを見直し、意見交換を行っている。またご利用者家族にも説明・了承の上で介護計画を作成している。		今後も継続していく。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体的に問題が生じた時、また精神面での状況変化の際には、介護計画の見直し・援助方法の変更・対応策などを論議している。日々の申し送りの中でも問題が生じた場合は論議し、報告している。		左記同様
40	○個別の記録と実戦への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に毎日記載し、他の情報についてもスタッフノートでの意見交換も行っている。		左記の二つの資料を活用し業務には支障ない 状況。今後も継続してよりよいプランにて実践していきたいと考える。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望、本人の要望を聞き出せるように配慮し、即、対応出来るように努力している。		スタッフの配置、時間にゆとりをもたせた事が柔軟な対応につながっていくと思われる為、継続していきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社会福祉協議会・ボランティアに依頼したことより、小学校での掲示板に掲載されたり、近隣警察署では入居者の状況に応じ応援依頼した経過もあり、入居者に安心感を与えて頂けるようなシミュレーションも実施していただいた。		地域資源を利用していきながら交流が広がっているので、今後も活用していきたい。

43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所からの空き情報の提供・サービス事業者の訪問の際に、当施設の状況を説明している。福祉用具に関しても、ご利用者の状態を見ながら業者にアドバイスを頂いたりしている。		同事業のケアマネージャーとの交流や他サービス事業者との相談を大事にしていきたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご家族の生活状況を把握する場面もあり、市役所への相談を促すこともあった。		今後、地域包括支援センターとの連携も図っていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診・往診を受け、医療管理を受けている。歯科については以前にかかっていた所からの往診を受ける事で、治療が継続出来るようにしている。		今後も継続していく。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2名については現在も専門医受診を行っている。また状態が変化したり、必要性のある場合は専門医受診を行っている。		今後も継続していく。ケースワーカーとも相談を繰り返し、病院受診など適切な対応をしていきたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	状態変化のある場合や気になることは、看護師へ相談・対応の指導を受けている。		往診医の看護師長には、些細な変化であっても電話連絡を行い、指示を頂き、受診の有無を確認し早期発見に努めていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病状把握のために、入院時は、即対応し、入院期間の確認、頻回に面会に行き、医師とのコンタクトも取っている。入院中であっても常に状態把握を行っている。		利用者の状況に応じて、試験外泊等も許可していただいた経過もある。営利目的ではない、その方に応じた働きかけと受け入れが出来るようにしていく。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期においてご家族・主治医・職員で、カンファレンスを持ち、施設内にて他サービス利用も検討しながら、支援できるように依頼していく。		ご本人の意見を尊重し最期まで、生活できるように援助していく。

50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医師との連携を密に図りながら、残された意志表示や行動、その人自身を尊重し、ご家族とも共同で、支援している。		今後もさまざまな職種と連携を図りながら異常の早期発見に努めていきたい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医療的な管理の必要性をご家族へ説明し、直接、医師からの説明を受けることで退所によるダメージを最小限にしている。(引っ越しの際も手伝っている)		退所後の面会を行い、ご家族とも情報を交換している。今後も継続していく。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に目を向け思いを受け止めながら対応し利用者に合わせた声かけを行っている。居室入室に際してはノック・声かけを行っている。記録については個々にカルテを作成しスタッフルームに保管している。		ミーティングにて、会話(言葉)について指導している。ご本人を尊重した対応を今後も継続していく。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	衣服を選んで頂いたり、食べ物の希望をお聞きしたりしている。時にバイキングで食事会を行ったりしている。選択が難しい方には二者択一の方法を採るなど選びやすいように工夫しながら雰囲気・場面作りを行っている。		本人の性格を十分に把握し、自己決定が出来るように、引き出していく努力をしていく。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「何時に起こして下さい」「今日は部屋で食事します」等利用者の意見も尊重し起床時間・入浴の有無・食事にかかる時間など、ホームのスケジュールではなく利用者のペースも大事にしている。		ご本人・ご家族の希望に添って支援していく。(外出・外泊・ご家族の宿泊「食料無料」・面会時間も制限はしていない。)
番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	週一回の買い物の日に化粧品や服を購入され歩いていける距離の美容室に毎月いかれる方もいる。外に出るのが困難な方には美容室の方にホームに来ていただいている。		ご本人の希望通りに支援継続していく。
56	○食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週一回の調理の日に利用者と一緒に食事を準備している。またおやつ作りにおいてもいろいろな意見も頂きながら、一緒に作る事も多い。食事やおやつはBGMを流し雰囲気作りも行っている。職員も同じテーブルで一緒に食事をしている。		衣・食・住を十分に楽しんで頂けるように支援していく。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	リビングに冷蔵庫を設置しているので自由に使用して頂いている。冷蔵庫の中にはおやつや佃煮・飲み物等が入っている。喫煙者は現在いない。		イベント事については、飲酒も行う事もある。
58	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々のトイレチェックを行い、排泄パターン（間隔）の把握に努め、自己判断出来ない方については時間事の促しを行っている。		継続して排泄チェックを怠らず、介助支援していく。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施。希望に合わせて毎日でも入って頂いている。また温泉気分を味わえるように入浴剤を使用している。入浴されない方についてはバブジェットで爽快感もえられている。温泉も楽しまれている。		入浴中のスタッフとの会話も大切な時間であり、一對一での対応の中で、何でもうち明けられる状況を作って行きたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動量の確保に努めている。夜眠れない方については一緒に横になったりしながら自然に入眠していただけるように配慮している。眠剤も使用している方もいるが、出来るだけ眠剤に頼らない安眠を心がけている。		状況に応じて、ご家族からの眠剤使用の有無について確認し、偽薬使用を行った例あり。(安眠得られている。)
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			

61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	煮物を作って頂いたり、おやつ作り、そば作りを手伝って頂いたりしている。犬のえさやりが毎日の日課になっている方もいる。また編み物の好きな方においては他者の衣服のボタン付けなど、入居者一人一人の得意な事を把握し発揮できるような場面作りを行っている。		自身が持っている能力を発揮できる場面を提供できるように働きかけていきたい。
----	---	--	--	---------------------------------------

12

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の小遣いは本人持ちとし、買い物に出かけた時や、移動パンの販売や初詣の際は入居者自身の判断で購入していただく場も提供している。		今までの生活歴や行為を全て制限せず可能な範囲で、機会を設けることも必要と判断し、今後も提供していきたいと考える。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週一回の外出の日に買い物をを行い、その他、図書館や美容室にも出かけている。		毎回の対応は困難であるが、個別に対応するなどして満足感を得て頂いている。本人の希望を大事にしていきたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族に声かけし美術館や記念館での鑑賞・コンサート・花見・紅葉・リンゴ狩り・温泉等に出かけている。全員での外出が難しい場合でも数人ずつに分け、皆に満足していただけるようにしている。		可能な限り、興味を示すものや、希望時に対応できるように努力している。ご家族からも外出の企画を頂く場面もある。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの入居者が2名いて常に連絡がとれる状況にある。リビングにある電話も自由に使って頂き、ご家族からの電話もとっており。郵便物に関しては各居室のポスト風の入れ物にいれている。		かけ方のわからない人については、安易にかけることができるように、大きな字で示し、自己にて出来るように支援している。手紙の際には、様々な準備を手伝っている。入居者の表情や変化に留意し、こちらからの誘導（電話）を行う場面もある。

66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間の制限はなく来訪された時には、居心地よく過ごして頂けるように配慮している。家族にも泊まって頂けるように広めの居室で食事や寝具も無料で提供している		本人と同様にご家族・来訪者を大切に長く生活していただけるように、スタッフも気軽に声をかけるように努力している。
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックも含めて、何が身体拘束にあたるのか職員は理解している。		環境面でも玄関は鍵を施錠せず、開放している。常に見守りを行っている。ご家族にも事故の危険性は解していただきながら、継続している。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は夜間帯のみ玄関の施錠を行っている。昼間は開放している。		上記同様
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は皆、リビングで過ごされる事が多いので見守りしている。居室入室の際にはノック・声かけを行っている。		「ひやりはっと」を十分に活用し、今後も危機管理に力をいれたい。

13

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・洗剤・刃物など、入居者の目に触れない場所を保管場所と決めている。刃物等を一律に入居者から遠ざけるのではなく、入居者の状態に応じて職員の見守りのもと使用していただいている。		備品チェック・危険物の除外に努め、取り組んでいる。
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故・ヒヤリハット事例・予測事故など、再発防止のための話し合いを行い、例) 転倒・・・靴をきちんと履く。靴下の着用の有無の確認 窒息・・・食材は細かく切る。えん下状態の把握。誤薬・・・声に出して渡す。 行方不明・・・名札の着用等、職員で周		再発防止のため、「ひやりはっと」の徹底。

		知・徹底する。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	申し送り・ミーティングの際にも入居者の予測可能な状態を把握し処置連絡などのシュミレーションを行っている。訓練は今後計画予定。		マニュアルの閲覧・救急対応に関しては今後、実施予定。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの構造上、どこからでも避難できるようになっているが、訓練は実施していない。隣接して病院があり、協力を得られるように働きかけている。緊急時連絡体制表あり。		実施予定あり。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の面会に際し入居者の現在の状態・状況・リスクも含めて説明していただき理解して頂いている。また、介助具など使用した場合の考えられるリスクを職員間で周知し家族にも理解していただいている。		リスクによる対応を常に心がけている。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック・食事量・水分量・排泄状況・入浴時のボディチェック等を行い職員間で周知し管理者に報告し指示を仰いでいる。		異常の早期発見に努め、必要時は、即、病院受診できるようにしている。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者各自の処方箋・処方内容を理解し病院受診後の薬の変更・服薬後の状態の変化に注意しながら様子観察している。		病院による薬の一包化を依頼し誤薬にたいし、3回の確認を底している。服薬表はファイル化し、いつでもすぐに確認できる場所に保管している。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物の配慮や水分量のチェックを行い排便チェックを行っている。ラジオ体操・乾布摩擦・健口体操を毎日実施し、適度な運動を継続している。		食事・水分摂取の把握は継続し、それ以上の対応は医師の指示を仰ぎ、対応している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日3回の口腔ケアを行っている。問題の生じた場合は訪問歯科に連絡するなどして、対応している。		健口体操を毎日実施している。今後は歯科医師による口腔機能評価や指導を受ける予定。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理担当の職員配置を行い、一人一人にあった食材調整も行っている。		カロリー計算を栄養士に依頼したい。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ予防接種は入居者全員に接種していただいている。感染症に対するマニュアルにて職員の周知を深めている。		保健所に確認したところ、ホームページの活用をするように指導を受けているので今後、活用していきたい。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日、必要量を近くのスーパーから届けて頂いている。食器・用具などは乾燥機にかけ、他は除菌剤にて毎日消毒を行っている。		常に冷蔵庫の食材チェックを行っている。以下、消毒に関しては継続していきたい（消毒の管理表を利用し徹底している）
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地周辺は低めのフェンスで囲われており、門も低めになっている。玄関周りは草花を植え広々とした玄関ホールになっている。玄関はいつも開放し、花や植木が見られるようにベンチを置いている。ご近所の方や家族が来訪された時にはベンチに座って頂き、つばめの巣等を見て楽しんで頂いている。		いつも開放しており、訪問を制限しない環境を作っている。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには観葉植物や季節の花を置き、行事（お雛様）等の置物を置いている。風通し、日当たりの良い造りであり、適宜カーテンで調節している。笑い声や入居者と明るくやりとりする声など、賑やかすぎる事もあるが、不		夏場は西日が入る為に、簾を使用し、採光の調節を行っている。季節感を出すために、毎月、その季節にあった壁面作りを行い、行事の写真を展示するなど、行っている。ご家族から頂いた、季節の色紙を季節事に交換したり、利

		快に感じられたり落ち着かなくなる入居者はおらず、逆に「話し声がするから出てきた」と話に参加される場面も多い。		用者作成のパズルを展示したりと空間を利用している。今後も、作品を展示していきたい。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルの他、居間には全員がゆっくり座れるソファを置き廊下脇には畳のコーナーも設けている。リビングや廊下に椅子やマッサージチェアを置いている。庭にもベンチやテーブルを置き入居者が思い思いに過ごせるように工夫している。		季節や状況に応じて、テーブルを移動して快適な空間となるような配置交換も行っている。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋間と和室の選択が出来る。ホーム備え付けは整理タンスのみでベッドも含め、あとは自由に持ち込んで頂いている。家具・位牌・思い出の写真といった大切な品・化粧品や鏡など、使い慣れた物を使用して頂いている。		居室に置いている電化製品については全て無料で持ち込んで頂いている。
番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホームの構造自体が風通しの良い造りで吹き抜けの天井に空気循環の為の扇風機を設置している。また季節により加湿器なども使用している。		外気との差に気を付け、各居室に温度計を設置し、快適に過ごせるようにしている。利用者の状況に応じて換気も行っている。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室において危険物や障害物となり得る物については、了承いただき取り除く、又は配置を変えるようにしている。フローアーや廊下に置いても注意している。		バリアフリーの設計であり、車椅子でも充分に対応できるような作りとなっている。福祉用具を利用し、ADLが低下しないようにしている。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その日の行動や確認を何度となく訪ねてくる場合もあるが、その都度、きちんと説明し、理解していただくようにしている。不安感の強いときには、ご		個々の能力を把握し見守る姿勢を取りながら、可能な限り援助する。

		家族への協力も頂きながら、最小限になるように努めている。出来る限り自分で出来ることには見守る姿勢で対応している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内の庭であれば所在確認の上、自由に花の手入れをしていただいたり、花々を鑑賞したりして過ごして頂いている。また洗濯干しなどご自分で希望があれば行って頂いている。		利用者の在宅生活の庭の環境を再現して、施設内に植え替えを行って、楽しまれたりしている。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない

91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	○職員は、生き生きと働いている	○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○①ほぼ全ての家族等が ②家族の2/3くらいが ③家族の1/3くらいが ④ほとんどできていない